



# LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの設定

- [LLDPに関する制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスに関する情報 \(2 ページ\)](#)
- [LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの設定方法 \(6 ページ\)](#)
- [LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの設定例 \(17 ページ\)](#)
- [LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスのモニタリングとメンテナンス \(18 ページ\)](#)
- [LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの追加情報 \(19 ページ\)](#)
- [LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの機能情報 \(20 ページ\)](#)

## LLDPに関する制約事項

- インターフェイスがトンネルポートに設定されていると、LLDPは自動的にディセーブルになります。
- 最初にインターフェイス上にネットワーク ポリシー プロファイルを設定した場合、インターフェイス上に **switchport voice vlan** コマンドを適用できません。 **switchport voice vlan vlan-id** がすでに設定されているインターフェイスには、ネットワーク ポリシー プロファイルを適用できます。このように、そのインターフェイスには、音声または音声シグナリング VLAN ネットワーク ポリシー プロファイルが適用されます。
- ネットワーク ポリシープロファイルを持つインターフェイス上では、スタティックセキュア MAC アドレスを設定できません。
- Cisco Discovery Protocol と LLDP が両方とも同じスイッチ内で使用されている場合、Cisco Discovery Protocol が電源ネゴシエーションに使用されているインターフェイスで LLDP を無効にする必要があります。LLDP は、コマンド **no lldp tlv-select power-management** または **no lldp transmit / no lldp receive** を使用してインターフェイスレベルで無効にすることができます。

# LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスに関する情報

## LLDP

Cisco Discovery Protocol (CDP) は、すべてのシスコ製デバイス（ルータ、ブリッジ、アクセスサーバ、スイッチ、およびコントローラ）のレイヤ2（データリンク層）上で動作するデバイス検出プロトコルです。ネットワーク管理アプリケーションは CDP を使用することにより、ネットワーク接続されている他のシスコ デバイスを自動的に検出し、識別できます。

device では他社製のデバイスをサポートし他のデバイス間の相互運用性を確保するために、IEEE 802.1AB リンク層検出プロトコル (LLDP) をサポートしています。LLDP は、ネットワークデバイスがネットワーク上の他のデバイスに自分の情報をアドバタイズするために使用するネイバー探索プロトコルです。このプロトコルはデータリンク層で動作するため、異なるネットワーク層プロトコルが稼働する 2 つのシステムで互いの情報を学習できます。

## LLDP でサポートされる TLV

LLDP は一連の属性をサポートし、これらを使用してネイバーデバイスを検出します。属性には、Type、Length、および Value の説明が含まれていて、これらを TLV と呼びます。LLDP をサポートするデバイスは、ネイバーとの情報の送受信に TLV を使用できます。このプロトコルは、設定情報、デバイス機能、およびデバイス ID などの詳細情報をアドバタイズできます。

スイッチは、次の基本管理 TLV をサポートします。これらは必須の LLDP TLV です。

- ポート記述 TLV
- システム名 TLV
- システム記述 TLV
- システム機能 TLV
- 管理アドレス TLV

次の IEEE 固有の LLDP TLV もアドバタイズに使用されて LLDP-MED をサポートします。

- ポート VLAN ID TLV (IEEE 802.1 に固有の TLV)
- MAC/PHY コンフィギュレーション/ステータス TLV (IEEE 802.3 に固有の TLV)

## LLDP および Cisco Device スタック

device スタックは、ネットワーク内の 1 つの device として表示されます。したがって、LLDP は個々のスタック メンバではなく、device スタックを検出します。

## LLDP-MED

LLDP for Media Endpoint Devices (LLDP-MED) は LLDP の拡張版で、IP 電話などのエンドポイントデバイスとネットワーク デバイスの間で動作します。特に VoIP アプリケーションをサポートし、検出機能、ネットワーク ポリシー、Power over Ethernet (PoE)、インベントリ管理、およびロケーション情報に関する TLV を提供します。デフォルトで、すべての LLDP-MED TLV がイネーブルです。

### LLDP-MED でサポートされる TLV

LLDP-MED では、次の TLV がサポートされます。

- LLDP-MED 機能 TLV

LLDP-MED エンドポイントは、接続装置がサポートする機能と現在イネーブルになっている機能を識別できます。

- ネットワーク ポリシー TLV

ネットワーク接続デバイスとエンドポイントはともに、VLAN 設定、および関連するレイヤ 2 とレイヤ 3 属性をポート上の特定アプリケーションにアドバタイズできます。たとえば、スイッチは使用する VLAN 番号を IP 電話に通知できます。IP 電話は任意の device に接続し、VLAN 番号を取得してから、コール制御の通信を開始できます。

ネットワーク ポリシー プロファイル TLV を定義することによって、VLAN、サービス クラス (CoS)、Diffserv コードポイント (DSCP)、およびタギング モードの値を指定して、音声と音声信号のプロファイルを作成できます。その後、これらのプロファイル属性は、スイッチで中央集約的に保守され、IP 電話に伝播されます。

- 電源管理 TLV

LLDP-MED エンドポイントとネットワーク接続デバイスの間で拡張電源管理を可能にします。devices および IP 電話は、デバイスの受電方法、電源プライオリティ、デバイスの消費電力などの電源情報を通知することができます。

LLDP-MED は拡張電源 TLV もサポートして、きめ細かな電力要件、エンドポイント電源プライオリティ、およびエンドポイントとネットワークの接続デバイスの電源ステータスをアドバタイズします。LLDP がイネーブルでポートに電力が供給されているときは、電力 TLV によってエンドポイント デバイスの実際の電力要件が決定するので、それに応じてシステムの電力バジェットを調整することができます。device は要求を処理し、現在の電力バジェットに基づいて電力を許可または拒否します。要求が許可されると、スイッチは電力バジェットを更新します。要求が拒否されると、device はポートへの電力供給をオフにし、Syslog メッセージを生成し、電力バジェットを更新します。LLDP-MED がディセーブルの場合や、エンドポイントが LLDP-MED 電力 TLV をサポートしていない場合は、初期割り当て値が接続終了まで使用されます。

**power inline {auto [max max-wattage] | never | static [max max-wattage]}** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力して、電力設定を変更できます。PoE インターフェイスはデフォルトで **auto** モードに設定されています。値を指定しない場合は、最大電力 (30 W) が許可されます。

- インベントリ管理 TLV

エンドポイントは、device スイッチにエンドポイントの詳細なインベントリ情報を送信することが可能です。インベントリ情報には、ハードウェアリビジョン、ファームウェアバージョン、ソフトウェアバージョン、シリアル番号、メーカー名、モデル名、Asset ID TLV などがあります。

- ロケーション TLV

deviceからのロケーション情報をエンドポイントデバイスに提供します。ロケーション TLV はこの情報を送信することができます。

- 都市ロケーション情報

都市アドレス情報および郵便番号情報を提供します。都市ロケーション情報の例には、地名、番地、郵便番号などがあります。

- ELIN ロケーション情報

発信側のロケーション情報を提供します。ロケーションは、緊急ロケーション識別番号 (ELIN) によって決定されます。これは、緊急通報を Public Safety Answering Point (PSAP) にルーティングする電話番号で、PSAP はこれを使用して緊急通報者にコールバックすることができます。

- 地理的なロケーション情報

スイッチの緯度、経度、および高度などのスイッチ位置の地理的な詳細を指定します。

- カスタム ロケーション

スイッチの位置のカスタマイズされた名前と値を入力します。

## ワイヤードロケーションサービス

device は、接続されているデバイスのロケーション情報およびアタッチメント追跡情報を Cisco Mobility Services Engine (MSE) に送信するのにロケーションサービス機能を使用します。トラッキングされたデバイスは、ワイヤレス エンドポイント、ワイヤードエンドポイント、またはワイヤード device やワイヤードコントローラになります。device は、MSE にネットワーク モビリティ サービス プロトコル (NMSP) のロケーション通知および接続通知を介して、デバイスのリンクアップイベントおよびリンクダウンイベントを通知します。

MSE が device に対して NMSP 接続を開始すると、サーバポートが開きます。MSE が device に接続する場合は、バージョンの互換性を確保する 1 組のメッセージ交換およびサービス交換情報があり、その後にロケーション情報の同期が続きます。接続後、device は定期的にロケーション通知および接続通知を MSE に送信します。インターバル中に検出されたリンクアップイベントまたはリンクダウンイベントは、集約されてインターバルの最後に送信されます。

device がリンクアップイベントまたはリンクダウンイベントでデバイスの有無を確認した場合は、スイッチは、MAC アドレス、IP アドレス、およびユーザ名のようなクライアント固有

情報を取得します。クライアントが LLDP-MED または CDP に対応している場合は、`device` は LLDP-MED ロケーション TLV または CDP でシリアル番号および UDI を取得します。

デバイス機能に応じて、`device` は次のクライアント情報をリンクアップ時に取得します。

- ポート接続で指定されたスロットおよびポート。
- クライアント MAC アドレスで指定された MAC アドレス。
- ポート接続で指定された IP アドレス。
- 802.1X ユーザ名（該当する場合）。
- デバイスカテゴリは、*wired station* として指定されます。
- ステータスは *new* として指定されます。
- シリアル番号、UDI。
- モデル番号。
- `device` による関連付け検出後の時間（秒）。

デバイス機能に応じて、`device` は次のクライアント情報をリンクダウン時に取得します。

- 切断されたスロットおよびポート。
- MAC アドレス。
- IP アドレス。
- 802.1X ユーザ名（該当する場合）。
- デバイスカテゴリは、*wired station* として指定されます。
- ステータスは *delete* として指定されます。
- シリアル番号、UDI。
- `device` による関連付け検出後の時間（秒）。

`device` がシャットダウンする場合は、スイッチは、MSE との NMSP 接続を終了する前に、ステータス *delete* および IP アドレスとともに接続情報通知を送信します。MSE は、この通知を、`device` に関連付けられているすべてのワイヤードクライアントに対する関連付け解除として解釈します。

`device` 上のロケーションアドレスを変更すると、`device` は、影響を受けるポートを識別する NMSP ロケーション通知メッセージ、および変更されたアドレス情報を送信します。

## デフォルトの LLDP 設定

表 1: デフォルトの LLDP 設定

機能	デフォルト設定
LLDP グローバル ステート	ディセーブル
LLDP ホールドタイム (廃棄までの時間)	120 秒
LLDP タイマー (パケット更新頻度)	30 秒
LLDP 再初期化遅延	2 秒
LLDP tlv-select	ディセーブル (すべての TLV との送受信)
LLDP インターフェイス ステート	ディセーブル
LLDP 受信	ディセーブル
LLDP 転送	ディセーブル
LLDP med-tlv-select	ディセーブル (すべての LLDP-MED TLV への送信)。LLDP がグローバルにイネーブルにされると、LLDP-MED-TLV もイネーブルになります。

## LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの設定方法

### LLDP のイネーブル化

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： デバイス> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例：	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	デバイス# <code>configure terminal</code>	
ステップ 3	<b>lldp run</b> 例：  デバイス (config)# <code>lldp run</code>	deviceでLLDPをグローバルにイネーブルにします。
ステップ 4	<b>interface interface-id</b> 例：  デバイス (config)# <code>interface gigabitethernet2/0/1</code>	LLDPをイネーブルにするインターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>lldp transmit</b> 例：  デバイス (config-if)# <code>lldp transmit</code>	LLDPパケットを送信するようにインターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 6	<b>lldp receive</b> 例：  デバイス (config-if)# <code>lldp receive</code>	LLDPパケットを受信するようにインターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 7	<b>end</b> 例：  デバイス (config-if)# <code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>show lldp</b> 例：  デバイス# <code>show lldp</code>	設定を確認します。
ステップ 9	<b>copy running-config startup-config</b> 例：  デバイス# <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## LLDP 特性の設定

LLDP 更新の頻度、情報を廃棄するまでの保持期間、および初期化遅延時間を設定できます。送受信する LLDP および LLDP-MED TLV も選択できます。



(注) ステップ 3～6 は任意であり、どの順番で実行してもかまいません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： デバイス> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>lldp holdtime seconds</b> 例： デバイス (config)# <b>lldp holdtime 120</b>	(任意) デバイスから送信された情報を受信側デバイスが廃棄するまで保持する必要がある期間を指定します。  指定できる範囲は 0～65535 秒です。デフォルトは 120 秒です。
ステップ 4	<b>lldp reinit delay</b> 例： デバイス (config)# <b>lldp reinit 2</b>	(任意) 任意のインターフェイス上で LLDP の初期化の遅延時間 (秒) を指定します。  指定できる範囲は 2～5 秒です。デフォルトは 2 秒です。
ステップ 5	<b>lldp timer rate</b> 例： デバイス (config)# <b>lldp timer 30</b>	(任意) インターフェイス上で LLDP の更新の遅延時間 (秒) を指定します。  指定できる範囲は 5～65534 秒です。デフォルトは 30 秒です。
ステップ 6	<b>lldp tlv-select</b> 例：	(任意) 送受信する LLDP TLV を指定します。



	コマンドまたはアクション	目的
	デバイス (config) # <b>tlv-select</b>	
ステップ 7	<b>interface interface-id</b> 例： デバイス (config) # <b>interface gigabitethernet2/0/1</b>	LLDP をイネーブルにするインターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 8	<b>lldp med-tlv-select</b> 例： デバイス (config-if) # <b>lldp med-tlv-select inventory management</b>	(任意) 送受信する LLDP-MED TLV を指定します。
ステップ 9	<b>end</b> 例： デバイス (config-if) # <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 10	<b>show lldp</b> 例： デバイス # <b>show lldp</b>	設定を確認します。
ステップ 11	<b>copy running-config startup-config</b> 例： デバイス # <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## LLDP-MED TLV の設定

デフォルトでは、device はエンドデバイスから LLDP-MED パケットを受信するまで、LLDP パケットだけを送信します。スイッチは、MED TLV を持つ LLDP も送信します。LLDP-MED エントリが期限切れになった場合は、スイッチは再び LLDP パケットだけを送信します。

**lldp** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、インターフェイスが次の表にリストされている TLV を送信しないように設定できます。

表 2: LLDP-MED TLV

LLDP-MED TLV	説明
inventory-management	LLDP-MED インベントリ管理 TLV
location	LLDP-MED ロケーション TLV
network-policy	LLDP-MED ネットワーク ポリシー TLV
power-management	LLDP-MED 電源管理 TLV

インターフェイスで TLV をイネーブルにするには、次の手順に従います。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例：  デバイス> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例：  デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface interface-id</b> 例：  デバイス (config)# <b>interface gigabitethernet2/0/1</b>	LLDP をイネーブルにするインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>lldp med-tlv-select</b> 例：  デバイス (config-if)# <b>lldp med-tlv-select inventory management</b>	イネーブルにする TLV を指定します。
ステップ 5	<b>end</b> 例：	特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
	デバイス(config-if)# <b>end</b>	
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b> 例： デバイス# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## Network-Policy TLV の設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： デバイス> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>network-policy profile profile number</b> 例： デバイス(config)# <b>network-policy profile 1</b>	ネットワーク ポリシー プロファイル番号を指定し、ネットワーク ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。指定できる範囲は 1 ~ 4294967295 です。
ステップ 4	<b>{voice   voice-signaling} vlan [vlan-id { cos cvalue   dscp dvalue}]   [[dot1p { cos cvalue   dscp dvalue}]   none   untagged]</b> 例： デバイス(config-network-policy)# <b>voice vlan 100 cos 4</b>	ポリシー属性の設定: <ul style="list-style-type: none"> <li><b>voice</b> : 音声アプリケーションタイプを指定します。</li> <li><b>voice-signaling</b> : 音声シグナリングアプリケーションタイプを指定します。</li> <li><b>vlan</b> : 音声トラフィックのネイティブ VLAN を指定します。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>vlan-id</b> : (任意) 音声トラフィックの VLAN を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。</li> <li>• <b>cos cvalue</b> : (任意) 設定された VLAN に対するレイヤ 2 プライオリティサービスクラス (CoS) を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。デフォルト値は 5 です。</li> <li>• <b>dscp dvalue</b> : (任意) 設定された VLAN に対する DiffServ コードポイント (DSCP) 値を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。デフォルト値は 46 です。</li> <li>• <b>dot1p</b> : (任意) IEEE 802.1p プライオリティタギングおよび VLAN 0 (ネイティブ VLAN) を使用するように電話を設定します。</li> <li>• <b>none</b> : (任意) 音声 VLAN に関して IP Phone に指示しません。IP Phone のキーパッドから入力された設定を使用します。</li> <li>• <b>untagged</b> : (任意) IP Phone を、タグなしの音声トラフィックを送信するよう設定します。これが IP Phone のデフォルト設定になります。</li> <li>• <b>untagged</b> : (任意) IP Phone を、タグなしの音声トラフィックを送信するよう設定します。これが IP Phone のデフォルト設定になります。</li> </ul>
ステップ 5	<b>exit</b> 例 :  デバイス (config) # <b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>interface interface-id</b> 例：  デバイス (config)# <b>interface gigabitethernet2/0/1</b>	ネットワークポリシープロファイルを設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>network-policy profile number</b> 例：  デバイス (config-if)# <b>network-policy 1</b>	ネットワークポリシープロファイル番号を指定します。
ステップ 8	<b>lldp med-tlv-select network-policy</b> 例：  デバイス (config-if)# <b>lldp med-tlv-select network-policy</b>	ネットワーク ポリシー TLV を指定します。
ステップ 9	<b>end</b> 例：  デバイス (config)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 10	<b>show network-policy profile</b> 例：  デバイス# <b>show network-policy profile</b>	設定を確認します。
ステップ 11	<b>copy running-config startup-config</b> 例：  デバイス# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## ロケーション TLV およびワイヤードロケーションサービスの設定

エンドポイントのロケーション情報を設定し、その設定をインターフェイスに適用するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>location { admin-tag string   civic-location identifier {id  host}   elin-location string identifier id   custom-location identifier {id  host}   geo-location identifier {id  host} }</b> 例： デバイス(config)# <b>location civic-location identifier 1</b> デバイス(config-civic)# <b>number 3550</b> デバイス(config-civic)# <b>primary-road-name "Cisco Way"</b> デバイス(config-civic)# <b>city "San Jose"</b> デバイス(config-civic)# <b>state CA</b> デバイス(config-civic)# <b>building 19</b> デバイス(config-civic)# <b>room C6</b> デバイス(config-civic)# <b>county "Santa Clara"</b> デバイス(config-civic)# <b>country US</b>	エンドポイントにロケーション情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>admin-tag</b> : 管理タグまたはサイト情報を指定します。</li> <li>• <b>civic-location</b> : 都市ロケーション情報を指定します。</li> <li>• <b>elin-location</b> : 緊急ロケーション情報 (ELIN) を指定します。</li> <li>• <b>custom-location</b> : カスタムロケーション情報を指定します。</li> <li>• <b>geo-location</b> : 地理空間のロケーション情報を指定します。</li> <li>• <b>identifier id</b> : 都市、ELIN、カスタム、または地理ロケーションの ID を指定します。</li> <li>• <b>host</b> : ホストの都市、カスタム、または地理ロケーションを指定します。</li> <li>• <b>string</b> : サイト情報またはロケーション情報を英数字形式で指定します。</li> </ul>
ステップ 3	<b>exit</b> 例： デバイス(config-civic)# <b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 4	<b>interface interface-id</b> 例： デバイス (config)# <b>interface gigabitethernet2/0/1</b>	ロケーション情報を設定するインターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<p><b>location</b> { <b>additional-location-information</b> <i>word</i>   <b>civic-location-id</b> {<i>id</i>   <i>host</i>}   <b>elin-location-id</b> <i>id</i>   <b>custom-location-id</b> {<i>id</i>   <i>host</i>}   <b>geo-location-id</b> {<i>id</i>   <i>host</i>} }</p> <p>例 :</p> <pre>デバイス(config-if)# location elin-location-id 1</pre>	<p>インターフェイスのロケーション情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>additional-location-information</b> : ロケーションまたは場所に関する追加情報を指定します。</li> <li>• <b>civic-location-id</b> : インターフェイスにグローバル都市ロケーション情報を指定します。</li> <li>• <b>elin-location-id</b> : インターフェイスに緊急ロケーション情報を指定します。</li> <li>• <b>custom-location-id</b> : インターフェイスにカスタム ロケーション情報を指定します。</li> <li>• <b>geo-location-id</b> : インターフェイスに地理空間のロケーション情報を指定します。</li> <li>• <b>host</b> : ホストのロケーション ID を指定します。</li> <li>• <b>word</b> : 追加のロケーション情報を指定する語またはフレーズを指定します。</li> <li>• <b>id</b> : 都市、ELIN、カスタム、または地理ロケーションの ID を指定します。指定できる ID 範囲は 1 ~ 4095 です。</li> </ul>
ステップ 6	<p><b>end</b></p> <p>例 :</p> <pre>デバイス(config-if)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>show location admin-tag</b> <i>string</i></li> <li>• <b>show location civic-location identifier</b> <i>id</i></li> <li>• <b>show location elin-location identifier</b> <i>id</i></li> </ul>	設定を確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
	例： デバイス# <code>show location admin-tag</code> または デバイス# <code>show location civic-location            identifier</code> または デバイス# <code>show location elin-location            identifier</code>	
ステップ 8	<b>copy running-config startup-config</b> 例： デバイス# <code>copy running-config            startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## での有線ロケーションサービスのイネーブル化 Device

### 始める前に

ワイヤードロケーションが機能するためには、まず、**ip device tracking** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： デバイス> <code>enable</code>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： デバイス# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>nmosp notification interval {attachment   location} interval-seconds</b> 例： デバイス(config)# <b>nmosp notification interval location 10</b>	NMSP 通知間隔を指定します。 <b>attachment</b> : 接続通知間隔を指定します。 <b>location</b> : ロケーション通知間隔を指定します。 <i>interval-seconds</i> : deviceからMSEにロケーション更新または接続更新が送信されるまでの期間(秒)。指定できる範囲は1～30です。デフォルト値は30です。
ステップ 4	<b>end</b> 例： デバイス(config)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>show network-policy profile</b> 例： デバイス# <b>show network-policy profile</b>	設定を確認します。
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b> 例： デバイス# <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの設定例

### Network-Policy TLV の設定 : 例

次に、CoS を持つ音声アプリケーションの VLAN 100 を設定して、インターフェイス上のネットワーク ポリシー プロファイルおよびネットワーク ポリシー TLV をイネーブルにする例を示します。

```
# configure terminal
```

```
(config)# network-policy 1
(config-network-policy)# voice vlan 100 cos 4
(config-network-policy)# exit
(config)# interface gigabitethernet1/0/1
(config-if)# network-policy profile 1
(config-if)# lldp med-tlv-select network-policy
```

次の例では、プライオリティタギングを持つネイティブ VLAN 用の音声アプリケーションタイプを設定する方法を示します。

```
config-network-policy)# voice vlan dot1p cos 4
config-network-policy)# voice vlan dot1p dscp 34
```

## LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスのモニタリングとメンテナンス

以下は、LLDP、LLDP-MED、ワイヤードロケーションサービスのモニタリングとメンテナンスのコマンドです。

コマンド	説明
<b>clear lldp counters</b>	トラフィックカウンタを0にリセットします。
<b>clear lldp table</b>	LLDP ネイバー情報テーブルを削除します。
<b>clear nmsp statistics</b>	NMSP 統計カウンタをクリアします。
<b>show lldp</b>	送信頻度、送信するパケットのホールドタイム、LLDP 初期化の遅延時間のような、インターフェイス上のグローバル情報を表示します。
<b>show lldp entry <i>entry-name</i></b>	特定のネイバーに関する情報を表示します。 アスタリスク (*) を入力すると、すべてのネイバーの表示、またはネイバーの名前の入力が可能です。
<b>show lldp interface [<i>interface-id</i>]</b>	LLDP がイネーブルに設定されているインターフェイスに関する情報を表示します。 表示対象を特定のインターフェイスに限定できます。

コマンド	説明
<b>show lldp neighbors</b> [ <i>interface-id</i> ] [ <i>detail</i> ]	デバイスタイプ、インターフェイスタイプや番号、ホールドタイム設定、機能、ポートIDなど、ネイバーに関する情報を表示します。  特定のインターフェイスに関するネイバー情報だけを表示したり、詳細表示にするため表示内容を拡張したりできます。
<b>show lldp traffic</b>	送受信パケットの数、廃棄したパケットの数、認識できないTLVの数など、LLDPカウンタを表示します。
<b>show location admin-tag</b> <i>string</i>	指定した管理タグまたはサイトのロケーション情報を表示します。
<b>show location civic-location identifier</b> <i>id</i>	特定のグローバル都市ロケーションのロケーション情報を表示します。
<b>show location elin-location identifier</b> <i>id</i>	緊急ロケーションのロケーション情報を表示します。
<b>show network-policy profile</b>	設定されたネットワークポリシープロファイルを表示します。
<b>show nmosp</b>	NMSP 情報を表示します。

## LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの追加情報

### MIB

MIB	MIB のリンク
本リリースでサポートするすべての MIB	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。  <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## シスコのテクニカルサポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/index.html">https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/index.html</a>

## LLDP、LLDP-MED、およびワイヤードロケーションサービスの機能情報

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.3SE Cisco IOS XE 3.3SE	この機能が導入されました。